

石川県能登半島地震 災害廃棄物の受入れ終了

令和6年1月1日の能登半島地震で被災した石川県珠洲市と輪島市を支援するため、東京都の依頼により災害ごみを受け入れていましたが、今後は災害廃棄物が減少する見込みから、令和7年8月で終了しました。
▶受入れ実績/令和6年度 40.02t
令和7年度 15.66t 合計 55.68t

活動報告

まちのできごと

●餅つき交流会復活

高橋邦房会長のもと令和7年度の新体制がスタートしました。12月13日(土)、「武蔵野わくらす」で数年ぶりの餅つき交流会を実施。町会で初めての防災炊き出し訓練を併せて行いました。天気もよく、町会に新しく参加して下さった方が多数来場しました。久しぶりのイベントでしたが、たくさんのお手伝いの力で40kgの餅米をつき、十軒鍋(けんちん汁)もでき、これからの近所のご縁に繋がりました。(北町五丁目町会)

●安全できれいなまちづくりを目指して

日頃より町内パトロール(児童の下校時見守りと歩道のごみ拾い、歩道の邪魔になる街路樹の枝切りなど)やふれあい広場花壇の整備をしています。小学校の美化活動と併せて行う一斉清掃では町内の通学路や千川上水治いを大勢の子どもたちと掃除しました。地域の環境美化、緑化への取り組みを継続したいと思います。(緑町三丁目町会)

●30周年を迎えました!

建て替えて生まれた武蔵野緑町パークタウンは、今年で入居30周年を迎えました。早いものですね。住んでいた私たちの願いは、新しく入居されるたくさんの方々とコミュニティを育むこと、緑豊かな環境を守ることでした。大家さんである公団(現UR)・武蔵野市ともたくさん話し合いを重ね、近隣のみなさんにも見守られながら育ってきたまちです。これからも…。(武蔵野緑町パークタウン自治会)

●防災訓練と安全安心への取り組み

11月8日(土)に防災訓練を行いました。今年も武蔵野消防署のご協力で、はしご車体験、煙体験、AED訓練などに加え、日頃の備えの大切さも教わりました。この他に、スマホ教室、イス体操、お手玉教室、笑いヨガ、防災無線の説明会、茶話会など、多くの行事を通じ、住民の暮らしの中に健康と安全安心を広める活動を続けています。(武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会)

相互支援による ふじみ衛生組合への搬入について

令和7年11月21日に発生した二ツ塚最終処分場エコセメント化施設の機器トラブルにより、焼却灰の受入れが停止となったため、相互支援協定に基づき、ふじみ衛生組合へ可燃ごみを搬入しました。
▶実績/令和7年12月8日~19日 299.32t

令和7年度 活動報告

■令和7年

- 4/24 第264回 運営協議会会議
- 5/29 第265回 運営協議会会議
- 7/8 委員研修 参加15名
川崎スーパーソーティングセンター
(株式会社Jサーキュラーシステム)
- 8/8 第266回 運営協議会会議
- 9/29 第267回 運営協議会会議
- 9/30 「運営協議会だより」第87号発行
- 10/5 バス研修 参加75名
深谷テラスヤサイな仲間たちファーム、
ふかや花園プレミアム・アウトレット



バス研修で収穫体験。収穫した野菜は持ち帰りました。

- 12/15 第268回運営協議会会議・市長との意見交換会

■令和8年

- 2/16, 20, 25, 3/4, 9, 13
環境健康診断実施 申込者128名
- 2/19 第269回 運営協議会会議
- 3/31 「運営協議会だより」第88号発行

編集後記

ごみ処理の変遷をみると、環境負荷の軽減や収集コストの抑制などを目指し、さまざまな施策が講じられてきたことがわかります。将来にわたり持続可能なごみ処理事業を進めるために、あらためて一人ひとりの「ごみ減量、分別、資源化」への取り組みが必要だと感じます。(押元綾子)

編集・発行/武蔵野クリーンセンター運営協議会

〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5 武蔵野クリーンセンター内
電話: 0422-54-1221

●武蔵野市ホームページ

<https://www.city.musashino.lg.jp/>

*この広報は、再生紙を使用しています。

武蔵野クリーンセンター 運営協議会 だより 88

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは
1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された
周辺3地域4団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

武蔵野クリーンセンター 運営協議会イベント報告



親子の参加者も多く、会場は熱気でいっぱい。大人も子どもも一緒に協力して作りました。

※吹き出し内は、終了後のアンケートから抜粋した参加者の感想



おうちを作るのは大変!



段ボールでも暖かいものが作れる



エコにすれば寒い家でも暖かくできる

ワークショップ講師より

グループそれぞれの個性豊かな家ができ、講師側もとても楽しめました。後日アンケートを拝見し、たくさんの方が「あたたかい家」を意識しながら制作してくれたことがわかり、うれしかったです。(東京建築士会 環境委員会 蕪木)

ワークショップ あたたかいエコな 家をつくろう

東京建築士会環境委員会の方を講師に招いて、未就学児、小学生を対象としたワークショップを開催しました。段ボール箱などを使い、大きな家を作りました。「ドーム」「サンカク」「ホーム」の3つの段ボールの家のキットを用意し、5~6人のグループごとに家を選んで組み立て、さらに窓や扉を作って隙間をプチプチでふさぎ、中を断熱、子どもたちがいろいろ工夫して、「あたたかい家」を完成させました。完成した家にみんなが入って、大盛りあがりの大成功でした。

ものを大事にしようと思った

ビニールカーテンであたかくなる

断熱についてわかった

段ボールなどの廃材を使っていろいろ作るのが楽しかった。暖かくする工夫もわかりました

完成した 段ボールの家

クリーンセンター見学者コースに、3月まで展示されました。



冷房や暖房は環境に負荷を与えるから、エコでそういうことをなくしていくんだと思いました



CONTENTS

- P1...武蔵野クリーンセンター運営協議会イベント報告
ワークショップ・野菜販売・ミニコンサート
- P3...武蔵野市のごみ対策
「ごみのダイエット(減量)」その先に
- P4...石川県能登半島地震 災害廃棄物の受入れ終了
相互支援によるふじみ衛生組合への搬入について
まちのできごと 令和7年度活動報告

●野菜販売●
地元野菜は
おいしいね



毎年人気の野菜販売。たくさんの方に買っていただけるよう、今年は商品も増やし個数制限もしましたが、たちまち売り切れてしまいました。



大根、キャベツ、ブロッコリー、赤かぶ、さつまいもなど今年も大きくておいしそうな野菜が並び、お買い得なお値段です。10時と11時からの販売は10数分で売り切れ。エコバッグの持参も定着し、「立派な野菜ね!」「おいしそう!」と笑顔が広がります。物価高は続いています、地元の新鮮で安全な野菜を求める気持ちは、みなさん共通でした。

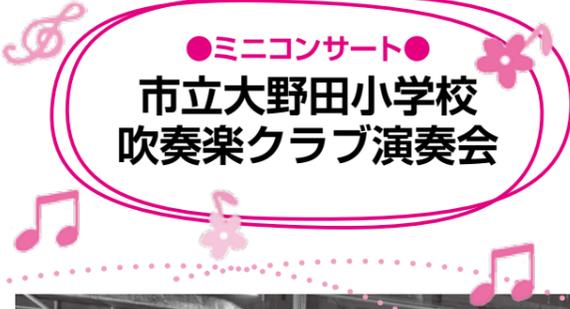


ずらりと並んだ旬の野菜。どれも立派でおいしそう。

●ミニコンサート●
市立大野田小学校
吹奏楽クラブ演奏会

プログラムは全5曲。アニメで多くのファンに愛される「銀河鉄道999」「名探偵コナンメインテーマ」「聖者の行進」に続いて、「僕らまた」「ケセラセラ」と令和のヒット曲です。部員70名の息を合わせた演奏は、力強くもやさしい音色で元気をもらいました。

また、たくさんの拍手に応えて、アンコール曲の「校歌」を聴いて、楽しいひとときを過ごしました。



顧問の先生より

今年も地域のみなさまの前で演奏する機会をいただき、団員一同張り切って練習を重ねてまいりました。たくさんの方が演奏を聴いてくださる中、一生懸命、堂々と発表できたことで、大きな成長と自信を得ることができたと思います。またアンコールの校歌は、会場の小学生のみなさんが一緒に歌ってくださって楽しい演奏となりました。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



地元小学校の吹奏楽クラブとあって、大勢の聴衆で会場は立ち見も出る大盛況でした。

武蔵野市のごみ対策 「ごみのダイエット(減量)」 その先に



東京23区では、家庭ごみ有料化が話題になっています。なんで今頃?というのが、正直、多摩地域の市民の思い。私たちの「当たり前」は区部では「けしからん」なのでしょう。多摩地域、そして武蔵野市の取り組みを振り返ってみたいと思います。

◆多摩地域のごみの有料化

多摩地域においての家庭ごみ有料化は、平成10(1998)年の青梅市に始まり、令和4(2022)年の武蔵村山市まで、29市・町の実施に至っています。

有料化に向かった大きな理由は『ごみの減量』、多摩地域のごみの焼却灰は、全て最終処分場である二ツ塚処分場(日の出町)に運ばれ、埋め立て処分の限界が危惧されていました。

◆ごみの減量の達成度

令和5(2023)年度の多摩地域における一人1日当たりのごみ量は679g/人・日で、都区部や全国*1と比べて約2割少ない値です。平成14(2002)年度、武蔵野市は多摩地域ワースト2位の1,113g/人・日でしたが、紙ごみの資源化などを進めたこともあり、大きく減量しました。令和6年の時点で、585g/人・日となっています。

*1 全国のごみ量は851g/人・日、都区部は、795g/人・日。(令和5(2023)年度の値)

◆家庭ごみ有料化と戸別収集

家庭ごみ有料化と併せて進められたのが戸別収集方式への変更です。現在29市・町のうち約8割がステーション収集方式ではなく戸別収集方式を採用しており、自分のごみに責任をもつことが、ごみの減量につながり、有料化実施のために必要でした。

◆市民のとまどいに対応

武蔵野市の家庭ごみ有料化が開始された、平成16(2004)年当時は、容器包装リサイクル法や家電リサイクル法、資源にできないプラスチック類の焼却など、ごみの収集方法が変わる中で、市民はとまどいました。

家庭ごみ有料化への関心は高く、説明会には大勢の市民が出席しました。市は有料化の考え方、プラスチックごみ焼却にも最善の対応をしていることなど、ていねいに説明しました。市民からは批判よりどうしたらごみが減らせるか、分別方法などについて質問が多く、ごみ減量への関心が集まりました。また、生産者や事業者に対しても、過剰包装やプラスチック製の宣伝物を控えてごみ減量の指導を求める意見もありました。

◆武蔵野市の取り組みと成果

市は、ごみ分別について「ごみ便利帳」を作成して全戸に配布し、市役所で実施前に「減量相談コーナー」を開設しました。以下、市の報告書からの抜粋です。……本市の「戸別収集」は公衆道路部分を使う門前収集を排し、敷地内収集を原則としたことから、ごみ置き場の位置決めのため、3万1千余箇所の建物・事業所の戸別訪問を必要とした。この膨大な準備作業のため、戸別収集への移行は、市内を3地域に分けての段階的実施となった。…(中略)…両施策が、短期間に、着実に定着したのは、市民のごみに関する意識の高さとともに、真夏の炎天下に職員が一軒一軒戸別に訪問して、ごみ置き場の位置決めをしてきたことが、市民のごみへの関心と施策への理解を引き出す結果をもたらしたものと考えられる。……

◆ごみのダイエット(減量)その先に

東京23区は範囲が広く人口も多く、課題も多いでしょう。『運営協議会だより』36号の「いま一度、ごみのダイエット(減量)について考えよう!!」という記事で、当時の高橋健一運営協議会会長は、「ごみのダイエット……誰かが始めるのではなく、誰もが協力し合って、子供や孫など次世代の人たちや多くの生き物たちと地球上で楽しく暮らし続けられるようにしたいものです」と伝えています。

引用及び参考文献：『多摩地域ごみ実態調査 2023(令和5)年度統計概要』2024年(公財)東京市町村自治調査会/「ひとり一人が出す、自分のごみに責任を持つ」戸別収集・家庭ごみの有料化実施の記録」2005年 武蔵野市ごみ総合対策課/『運営協議会だより』36号 2004年/武蔵野緑町パークタウン自治会の総会議案書・広報

当時の主なごみ収集の移り変わり

平成12(2000)年7月	容器包装リサイクル法に基づき、ペットボトル・その他プラスチック類の分別収集開始。可燃ごみ収集が週2回、「資源の日」週2回に。
平成13(2001)年4月10月	家電4品目のリサイクル法施行。粗大ごみシール制の導入。
平成15(2003)年4月10月	ふれあい・狭あい道路の戸別収集開始。パソコンリサイクル法施行。
平成16(2004)年8月10月	資源にできないプラスチック類を可燃ごみとして焼却。 家庭ごみ有料化、戸別収集開始。